



安心できる施設に

道の駅平泉へAED設置標章

道の駅平泉は10月16日、一関市消防本部からAED(自動体外式除細動器)の設置を示す標章の交付を受けました。町内の標章設置施設は19カ所目です。

同日は一関西消防署平泉分署の阿部真一副署長が、佐々木正駅長に標章を手渡しました。同駅ではAEDを1台設置。職員15人が操作の講習を受講済みで、佐々木駅長は「お客さまが安心できる施設として、今後も職員間で意識を持って取り組みたい」と語りました。



思いやり、いたわりの心を育む

町立幼稚園、平泉保育所で人権交流会

町立幼稚園・平泉保育所で10月3日、4・5歳児対象の人権交流会が開催されました。大型紙芝居「白い魚とサメの子」を人権擁護委員が読み聞かせ、思いやりやいたわりの心を持つことの大切さを伝えました。

園児たちは紙芝居に見入り、「友達が困っていたら助けてあげたいです」と感想を話しました。園児には人権擁護委員から「人権まもるくん」などのマスコットが配られ、園児たちは楽しい時間を過ごしました。



薄暮時のライト早め点灯を

国道4号平泉バイパスで啓発活動を展開

町交通安全対策協議会は10月17日、啓発活動「ライト早め点灯運動」を国道4号平泉バイパスで展開し、ドライバーに薄暮時の早め点灯を呼びかけました。

一関地区交通安全協会、町交通安全母の会連合会、町交通指導隊、一関警察署などから約45人が参加し、歩道で早め点灯や安全運転を促すのぼり旗を掲げました。同連合会長の小野寺祐子さん(14区)は「交通死亡事故発生ゼロの継続には、草の根活動が大切」と話しました。



姉妹都市・和歌山県田辺市など訪問

4年ぶりの「町民号」に町民55人参加

平泉町民号は10月6～8日、4年ぶりに開催されました。今回は町民55人が参加し、町の姉妹都市・和歌山県田辺市などを訪れ、名所などを見学しました。

一行は、伊勢神宮や熊野那智大社・那智の滝などを訪れ、田辺市で「弁慶まつり」を見学。道中は買い物も楽しみ、2泊3日の旅を終えました。町民号は、本年度第2弾として12月に東京都小笠原村への旅を予定しています。

学習発表で創立150周年を祝う

平泉小学校で記念式典

平泉小学校創立150周年記念式典(学習発表会)は10月21日、学校体育館で行われました。児童の学習発表などを通じて出席者が学びの歴史を振り返りました。

児童会長の佐川遼貴さん(6年)が「全力で練習したので、楽しんで見てほしい」と呼びかけ、記念発表として、学年ごとにダンスや演奏、演劇などを披露しました。

平泉小は明治6年に開校し、大正11年に現在地に移転。これまでに10,675人が卒業しました。



住民サービス向上、福祉の増進へ

町と県行政書士会が連携協定を締結

町と県行政書士会(岡田秀治会長)は10月12日、「行政手続きに関する連携協定」を締結しました。成年後見制度や空き家対策など、地域のさまざまな課題について、協力して適切に対応することで、住民サービスの向上と住民福祉の増進を図ります。

同日に役場で行った締結式で、青木町長と岡田会長が協定書に押印。岡田会長は「地域住民の相談に対し、役場職員と協力して解決を手伝いたい」と述べました。



参加者が実りの秋を体感

ライスアート稲刈り体験

色の異なる稲で水田に絵や文字を描く「ライス・アートinひらいずみ」(農事組合法人アグリ平泉主催)の稲刈り体験は10月21日、長島地区の水田で開かれ、参加した約100人が実りの秋を体感しました。

江戸時代の紀行家菅江真澄をテーマにした図柄の稲を鎌で手刈りしました。収穫したコメは、町内外の学校や福祉施設に贈られる予定です。稲刈り後には、市野々神楽(一関市)の演舞を鑑賞しました。



故・松本吉男さんが旭日単光章

町議5期17年、町議会議長など歴任

元町議会議長で令和5年6月10日に亡くなった松本吉男さん(5区)が、旭日単光章を受章しました。

叙勲の伝達は10月12日に役場で行われ、松本さんの妻久子さんが青木町長から勲章を受け取り、「大変ありがたい、皆さんのおかげです」と感謝しました。

松本さんは昭和46年4月から町議を通算5期17年務め、議会運営委員長や議長などを歴任。地方自治の発展に尽力し、住民福祉の向上に寄与しました。